

「AはBの王様／王者／チャンピオン」形式に関する考察

糸山 泰斗

A Study of the Meanings and Usages of the Expressions “A-wa B-no OHSAMA / OHJA / CHANPION (A is the KING / CHAMPION / CHAMPION of B.)”

MOMIYAMA Taito

Abstract

This paper explores three types of modern Japanese expressions; “A-wa B-no OHSAMA (A is the KING of B.),” “A-wa B-no OHJA (A is the CHAMPION of B.),” “A-wa B-no CHANPION (A is the CHAMPION of B.).” The shared feature of the three expressions is that they all have metaphorical meanings extended from their prototypical meanings. On the other hand, each expression of them has unique characteristics, as follows.

(1) “A-wa B-no OHSAMA (A is the KING of B.)”

- ① The basic meaning of this expression is that A stands first among the members of B, as previous studies have suggested.
- ② The word OHSAMA in this expression inherits features such as control over others and heredity from its prototypical meaning.

(2) “A-wa B-no OHJA (A is the CHAMPION of B.)”

- ① The basic meaning of this expression is that it is judged that A excels over all other members of B.
- ② The feature of comparing A with all other members of B is a metaphorical extension from OHJA’s prototypical meaning, that is, a person who has won his/her way to becoming the champion.

(3) “A-wa B-no CHANPION (A is the CHAMPION of B.)”

- ① The basic meaning of this expression is similar to that of “A-wa B-no OHJA.”
- ② This expression can be used in undesirable cases, that is, when A is the worst of all members of B in a certain respect.

In addition, comparing these three expressions with “A-wa B-no DAIMEISHI (A is the PRONOUN of B.)” — DAI is reinterpreted as “substitute” and MEISHI as “words” — we reconfirmed the validity the descriptions of their meanings and uses (1)~(3), described above.



目次

- 1 はじめに
- 2 プロトタイプの意味について
- 3 先行研究における「AはBの王様」
 - 3.1 先行研究の概要
 - 3.2 先行研究の問題点
- 4 「AはBの王者」の分析
 - 4.1 「王者」という語の辞書の記述
 - 4.2 「王者」のプロトタイプの意味
 - 4.3 「AはBの王者」の意味
- 5 「AはBのチャンピオン」の分析

- 5.1 「チャンピオン」の辞書の記述及びプロトタイプの意味とメタファーとして意味
- 5.2 「AはBのチャンピオン」の意味
- 6 「王様」の再考
- 7 「AはBの王様／王者／チャンピオン」と「AはBの代名詞」の比較
 - 7.1 「王様」と「代名詞」の比較
 - 7.2 「王者」と「代名詞」の比較
 - 7.3 「チャンピオン」と「代名詞」の比較
- 8 まとめ

1 はじめに

本研究は、森（2003, 2010, 2013）で取り上げられている「AはBの王様」形式（「カブトムシは昆虫の王様だ」等）と、「王様」の類義語である「王者／チャンピオン」を使用した「AはBの王者／チャンピオン」形式（「テレビは娯楽の王者だ」「ボールマッカートニーはラブソングのチャンピオンだ」等）を考察の対象とし、その意味・用法を明らかにすることを目的とする。以下、本研究の構成を簡単に示す。

まず、2節で、分析・考察の前提となるプロトタイプの意味について確認する。次に、3節で、「AはBの王様」形式における先行研究（森 2003, 2010, 2013）を見る。4節では、「王様」の類義語である「王者」という語について、辞書の記述を概観し、実例に基づき「王者」のプロトタイプの意味を構成する要素を特定する。そして、「AはBの王者」形式がどのような意味を表すかを明らかにする。さらに、5節では「王様／王者」の類義語である「チャンピオン」という語について、辞書の記述を概観し、そのプロトタイプの意味を特定し、「AはBのチャンピオン」形式の意味・用法を考察する。6節では、「王者／チャンピオン」の考察を踏まえて、「王様」について再考する。7節では、「AはBの王様／王者／チャンピオン」形式と「AはBの代名詞」形式を比較する。最後に、8節にまと

めを記す。

2 プロトタイプの意味について

2節では、分析・考察の前提となる概念として、プロトタイプの意味を取り上げる。瀬戸（2019: 273-274）は、例えば鳥のカテゴリーには、ツバメやスズメやハトのような鳥らしい鳥から、空を飛べないダチョウや海に潜るペンギンまでが属し、この中で鳥らしい鳥がカテゴリーの中心、つまりプロトタイプ（典型）であると述べている。また、色彩名の赤には典型的な赤が存在するが、周辺部の赤は他の色との線引きが難しい。このように、カテゴリーの境界が明確に区別できるとは限らないということもプロトタイプカテゴリーの特徴の一つとしている。

次に、多義語の複数の意味について、プロトタイプカテゴリーの観点から確認する。複数の意味の全体を一つのカテゴリーと考えると、多義語の意味もプロトタイプカテゴリーであり、より典型的な意味と周辺的な意味があると考えられる。なお、多義語とは、国広（1982: 97）で「同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」と定義されている。鷲見（2019: 572）は、「イタイ」という多義語には、＜怪我や病気による肉体的な苦しさを感じるさま＞（「傷口が痛い」）という典型的な意味

と、この意味から拡張した〈精神的な苦しさを感ずるさま〉(「その話は耳が痛い」)という周辺の意味があり、このうち、典型的な意味をプロトタイプの意味としている。また、鈴木(1997: 167-173)では、「ツク」という語の多義的別義において、例えば「キューで球をツク」の「ツク」のように、〈棒状のもの〉〈先端を〉〈他のあるものに〉〈瞬間的に〉〈接触させ〉〈衝撃を与える〉という最も基本的な意味をプロトタイプの意味としている。本研究でも以上の考えに従い、多義語において、より典型的な意味をプロトタイプの意味として扱うこととする。

3 先行研究における「AはBの王様」

3節では、「AはBの王様」形式を取り上げる。まず、3.1で、先行研究において「AはBの王様」形式がどのように扱われているかについて見る。その上で、先行研究の問題点に関して3.2で述べる。

3.1 先行研究の概要

まず、森(2003: 2)では、「『君の瞳は宝石のようだ』のように、類似関係を標識の形で明示したものが、直喩(明示的な比喩形式)として考えられるのならば、『小町は美人の代名詞だ』のような『類一種』関係を『代名詞』という標識を使って明示したものや、『長島は巨人のシンボルだ』のように『全体一部分』関係を『シンボル』という標識を使って明示したものは、それぞれ明示的提喩・換喩表現と考えられる」としている。また、森(2003, 2013)には、「AはBの代名詞」、「AはBの顔」、「AはBのシンボル」という3つの明示的提喩・換喩形式は単に「類一種」関係「全体一部分」関係を表示しているのではなく、「AがBにおいて代表的な項である」という関係をも同時に示していると記述されている。

森(2010)では、明示的比喩「AはBの代名詞」形式と互換的に使われることがある形式として、例えば、「ダイヤモンドは宝石の代名詞／王様だ」のよう

に、「AはBの王様」形式を挙げている。さらに、「シイタケはきのこの代名詞／??王様だ」「マツタケはきのこの??代名詞／王様だ」のように、「王様／代名詞」の言い換えができない例もあると指摘している。

また、「AはBの王様」形式について、森(2010)は、形式上の多様性として必ずしも「AはBの王様」という形式で現れるわけではないと指摘する。すなわち、「AはBの王様」という形式の他に、「Bの王様」が独立して用いられるものや、「指紋は個人識別の王様と呼ばれる」のように、「と呼ばれる」「として知られる」「として名高い」「と評される」「とされる」等と併用され、社会通念となっていることが示されているものがあるとしている。なお、このように「と呼ばれる」等が後続し社会通念であることが明示的に表されるという例は、「代名詞／顔／シンボル」に加えて、本研究で扱う「王者／チャンピオン」にも同様に認められる。以下の(1)がその例である。

- (1) a. 若手経営者の代名詞として注目を集めた堀江前社長を頂点に急成長を遂げたLDの経営は、さらに厳しい状況に追い込まれた。(『朝日新聞』(朝刊)2006年2月23日、聞蔵Ⅱビジュアル)¹
- b. 次回の道は、海外からの観光客が数多く訪れるなど、すっかり「日本の顔」となった東京・渋谷のスクランブル交差点です。(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(NINJAL-LWP for BCCWJ))
- c. 大衆消費社会のシンボルとなった「自動車」一九世紀の鉄道建設に次いで、二〇世紀の総合産業として世界の資本主義経済を牽引したのはアメリカで発達した「自動車」産業だった。(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(NINJAL-LWP for BCCWJ))
- d. 段ボールでできた形も大きさもそっくりの蒸気機関車(SL)が、名古屋で初めて一般公開される。車両はSLの王者として名高いC62。来月の鉄道フェスタで現役当時の写真

とともに展示される。(『朝日新聞』(夕刊)
2018年10月30日、聞蔵Ⅱビジュアル)

- e. 社長をやって10年目の昭和42年、東京支店の粉飾決算がわかりましてね。予想もしてなかった債務超過が表面化したんですよ。当時私は日本医薬品卸業連合会副会長をずっとやってましてね。医薬品流通業界のチャンピオンと言われたりしてましたから、「サルも木から落ちた」なんて言われましたよ。その時に、恥も外聞もなく先代の土地などの財産を次々に処分しましてね。ただ、それで会社を縮小しただけでなく、当時、破格の金でコンピューターを導入したんです。NTTより1年早かったですよ。(『朝日新聞』(朝刊) 1989年3月9日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(1a)は「堀江前社長は若手経営者の代名詞として注目を集めた」という形式で、「AはBの代名詞」形式に「として注目を集めた」という要素が後続している。そして、「堀江前社長が若手経営者の代表的存在である(であった)」ということが日本人の相当数の人が知るところであることを示しているといえる。同様に、(1b)の「(東京・渋谷のスクランブル交差点はすっかり『日本の顔』となった」、(1c)の「(『自動車』は大衆消費社会のシンボル)となった」、(1d)の「(C62はSLの王者)として名高い」、(1e)の「(私は医薬品流通業界のチャンピオン)と言われたりしてました」のように、「となる」「として名高い」「と言われる」等が後続し、社会通念であることが明示的に表される例となっている。

森(2010)は「王様」が使われている事例を、領域ごとに整理し分析している。以下に森(2010)における[人物][生物][花][食品]の領域の分類結果の一部を挙げる。なお、列挙する例は、先行研究に従い「Bの王様、A」という形に統一する。

[人物]

「マンガの王様、石ノ森章太郎」「サッカーの王様、

ペレ」「ポップスの王様、マイケル・ジャクソン」「ロックンロールの王様、エルビス・プレスリー」等

[生物][花]

「溪流の王様、イワナ」「昆虫の王様、カブトムシ」「金魚の王様、ランチュウ」「花の王様、牡丹／姚黄」「ユリの王様、カサブランカ」等

[食品]

「エビの王様、イセエビ」「果物の王様、ドリアン」「海の味覚の王様、トラフグ」「肉の王様、松阪牛」等

[人物]領域では、＜一位＞性と＜代表＞性を兼ね備えた「第一人者」的なものが「王様」として位置づけられているとする²。確かに、「マンガの王様、石ノ森章太郎」は、漫画の世界においては石ノ森章太郎が第一人者であることを表すと考えられる。第一人者は、その分野の＜代表＞と＜一位＞を兼ね備えているため、「代名詞」形式に入れ換えが可能としている。

[生物][花]領域は、個人的判断か社会通念かはさだかではないが、何らかの点(カブトムシの場合は大きさという点、ランチュウの場合は美しさという点、牡丹の場合も美しさという点)で＜一位＞性を持つものが「王様」として捉えられているとしている。「花の王様、姚黄³」という例からわかるように、美しければ、知名度や＜代表＞性は重要視されていないことが推察できる。この場合は、＜代表＞性がないので「代名詞」に言い換え不可ということである。

[食品]領域は、多くの場合、美味という点で＜一位＞性を持っているものが多い。他には、美味性を持ちつつ、大きさ・高価という側面が前面に出ているものもある。なお、「ルチンの王様(ダッタンソバ)⁴」のように、栄養分に富んだものが使われる例もある。また、「下仁田ネギは、香り、甘み、栄養もネギの王様です。」のように、「王様」として判断される複合的な理由が表示されているものもある。

以上の分類結果から、森(2010)は以下のようにまとめている。[人物]領域ではもともと「王様」とい

う語に意味としてあった<一位>性が<代表>性とともに残存しており、単なる「代表」の意味を表しているとはいえないとし、他の領域についても、何らかの点での<一位>性が前提となり、<代表>性は副次的なものであるとしている。そして、「AはBの王様」形式は、「代名詞」に言い換えができ、明示的提喻形式と類似の機能を果たしているとしても、あくまでも「王様」という語のメタファー的使用に過ぎないとしている。

最後に、「AはBの代名詞」を用いることはできるが「AはBの王様」は使えない場合として「ユダは裏切り者の代名詞／＊王様」を挙げている。このように「代名詞」のみが使用可能なものに関しては、「王様」の特徴である何らかの<一位>性を想定することが困難だからであると述べている。

3.2 先行研究の問題点

3.2では、先行研究において、言及されていない点について記述する。

まず、森(2010)では、「王様」という語と「AはBの王様」で使われる「王様」の関係について、<一位>性という点のみにしか言及されていないため、<一位>性に加えて、「王様」という語のプロトタイプの意味のどのような特徴がメタファーである「AはBの王様」形式に引き継がれているかを詳述しなければならない。

さらに、「王様」の類義語である「王者／チャンピオン」についても、「テレビは娯楽の王者だ」「ポールマッカートニーはラブソングのチャンピオンだ」等のように、「AはBの王者／チャンピオン」という形式で使われることがある。「AはBの王様／王者／チャンピオン」の3つの形式を比較することは、「AはBの王様」形式の意味・用法をより明確にすることに繋がると考えられるため、以下で議論する。

4 「AはBの王者」の分析

4節では、「王様」の類義語である「王者」について、「テレビは娯楽の王者だ」のように「AはBの王者」形式として使われることから、比較の対象として「王者」を考察する。特に、4.1では、「王者」という語の辞書の記述を確認し、4.2では、「王者」という語のプロトタイプの意味を構成する要素を検討する。その上で、4.3で、「AはBの王者」の意味を記述する。

4.1 「王者」という語の辞書の記述

まず、以下に「王者」という語の実例を示す。次に辞書(『日本国語大辞典』第二版・『大辞林』第四版・『大辞泉』第二版)の記述を概観する。

まず、以下の例を見てみよう。

- (2) 生産量、品質のいずれでも他の産地を圧倒し、日本刀の王者として君臨してきた備前刀。第2次世界大戦後の混乱などで、所在不明になった刀も多い。(『朝日新聞』(朝刊)2018年4月6日、聞蔵Ⅱビジュアル)
- (3) 当時の様子を精巧に再現したスタジオセットや衣装も話題を集めたが、テレビが娯楽の王者だった時代の空気を、井上さんは直接知らない。(『週刊アエラ』2016年11月28日、聞蔵Ⅱビジュアル)
- (4) 中央競馬を一元管理するJRAには高い賞金を出すだけの資金がある。グラフ(＝略)に見る通り、売上高(勝馬投票券の発売金総額)は、かつて公営ギャンブルの王者だった競艇を抜き、90年に3兆円を突破、91年には3兆4300億円と急伸している。(『朝日新聞』(夕刊)1992年5月23日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(2)～(4)はそれぞれ、「備前刀は日本刀の王者だ」「テレビは娯楽の王者だった」「競艇は公営ギャンブルの王者だった」という形式で、「AはBの王者」形式

である。「AはBの王者」形式は、の「AはBの王様」形式と似た性質を持つと思われるが、言い換えができる例とそうでないものに分かれ、以下の(5)のように容認度に差がある。

- (5) a. ? 備前刀は日本刀の王様だ⁵。
 b. テレビは娯楽の王様だった。
 c. 競艇は公営ギャンブルの王様だった。

次に、以下の3つの辞書の「王者」の項の記述を比較する。

『日本国語大辞典』(p. 854)

- ① 王である人。王。国王。天皇。おうぎ。
 ② 王道をもって天下を治める君。
 ③ ある集団において最も力のある、すぐれた者。

『大辞林』(p. 332)

- ① 王である人。
 ② その集団で最高の地位にある人。
 ③ 王道によって天下を治める人。

『大辞泉』(p. 473)

- ① 王である人
 ② 同類のものうち最も実力のある者。
 ③ 王道で天下を治める君。

3つの辞書全てで、「王者」という語は3つの意味があるとされている。この辞書の記述を踏まえ、「王者」の現代日本語におけるプロトタイプの意味は『日本国語大辞典』における③「ある集団において最も力のある、すぐれた者」、『大辞林』における②「その集団で最高の地位にある人。」、『大辞泉』における②「同類のものうち最も実力のある者。」であると考えられる⁶。これらには、全て「ある集団・同類のものの中で」「最も力(実力)・地位がある者」という点が共通している。

4.2 「王者」のプロトタイプの意味

4.2 では、辞書の記述を踏まえ、「王者」という語のプロトタイプの意味を抽出する。続いて、「王者」という語のプロトタイプの意味を構成する要素が、どのように「AはBの王者」形式に受け継がれているかについて考察する。

まず、辞書の記述にある「ある集団・同類のものの中で最も実力・地位がある者」という意味で「王者」が使われている例として、以下の(6)を挙げる。

- (6) a. ロンドン五輪金メダリストで世界ボクシング協会(WBA) ミドル級王者の村田諒太(32) = 帝拳 = が今秋にも予定される2度目の防衛戦に向け、本格的に始動した。「(攻撃と防御を)分けて戦えば良い勝負ができるんじゃないか」と、いずれは主要3団体のミドル級タイトルを持つゲンジナー・ゴロフキン(カザフスタン)との世界戦を熱望する。(『朝日新聞』(夕刊)2018年5月12日、聞蔵Ⅱビジュアル)
- b. マツダスタジアムで4戦先勝利の第2戦があり、セ・リーグ王者の広島が5-1で2年連続の日本一を狙うソフトバンクに快勝。対戦成績を1勝1分けとした。29日は移動日で、第3戦は30日午後6時半からヤフオクドームで行われる。(『朝日新聞』(朝刊)2018年10月29日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(6a)を「AはBの王者」という形式に当てはめると、「村田諒太はミドル級の王者だ」となり、村田選手がミドル級という階級において、タイトルマッチに勝利し、その階級で最も力のある選手であると認められていることを示している。辞書の記述に照らし合わせると、「ミドル級という階級で(=ある集団・同類のものの中で)」「最も力のある選手である(=最も実力・地位がある者)」ということになる。

(6b)を「AはBの王者」という形式に当てはめると

と、「広島（カープ）はセ・リーグの王者だ」となり、ペナントレースで勝率第一位という成績をおさめ、セ・リーグ（セントラル・リーグ）の中で最も強いチームであることを表している。辞書の記述に照らし合わせると、「セ・リーグの中で（＝ある集団・同類のものの中で）」「最も強い勝率第一位のチーム（＝最も実力・地位がある者）」となる。

(6) のような使われ方が一般的であるということからも、「王者」の現代日本語におけるプロトタイプの意味は、まずは「ある集団・同類のものの中で、最も実力・地位がある者」であると考えられる。

ところで、「王者」という語が「テレビが娯楽の王者だった」のように使われる時、テレビは人でもチームでもないため、「王者」がメタファーとして使用されていることは明白である。この点においては森(2010)の「王様」と同様である。上でも述べたように、森(2010)では「王様」という語の<一位>性という性質を「AはBの王様」形式でも引き継ぎ、「Aという項がBの中で（何らかの点で）一位である」ことを表すことができるとしている。そして、「王様」のプロトタイプの意味に<一位>性という特徴を見出したように、「王者」という語についても、そのプロトタイプの意味を構成する要素について、「ある集団・同類のものの中で、最も実力・地位がある者」に加えて、さらに考察する必要があると思われる。

以下で、「王者」のプロトタイプの意味（「ある集団・同類のものの中で、最も実力・地位がある者」）が表す対象が有する諸特徴について、さらに検討する。

まず、「（ある分野で）最も実力がある」ということは大会等で他の同類の選手の中で勝ち上がる可能性が高く、勝ち上がる者は当然人気も高くなる。プロ野球等の試合には収益があるため勝ち上がれば収入（主催者の視点からは収益）も同様に高くなる。このような「他の（相当数の）選手等と戦い、勝ち上がって成る。高い実力・人気・収入（収益）を有する」といったものが「王者」のプロトタイプの意味を構成する要素だと考えられる。

(6a) の「村田諒太はミドル級の王者だ」という例

は、他の相当数の選手と戦い、勝ち上がって世界チャンピオンになっていること表しており、「他の（相当数の）選手等と戦い、勝ち上がって成る」ことを顕著に表した例であるといえる。また、(6) の2例は、どちらもある集団の中で高い実力を持っているという例である。(6a) の「2度目の防衛戦」という記述は世界チャンピオンになった後さらに挑戦者を一度退けていることを示し、十分な実力があるといえる。また、(6b) の「2年連続の日本一を狙うソフトバンクに快勝」という記述は、前の年に優勝しているチームに快勝していることを示し、確かな実力があることの裏付けとなる。以下の(7)は「王者」という語が「高い人気がある」こととともに使われている例である。

(7) 「おめでとう」「がんばれよ」——。平昌五輪で2度目の金メダルに輝いた羽生結弦選手(23)のパレードが22日、仙台市内であり、沿道を埋めた約10万8千人(実行委員会発表)の観客は、地元出身の王者の凱旋(がいせん)を祝った。(『朝日新聞』(朝刊)2018年4月23日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(7) は「平昌五輪で2度目の金メダルに輝いた羽生結弦選手」を「王者」と表現している例であるが、その凱旋パレードに「約10万8千人」の観客が来たことが明記されている。これは「王者」に「高い人気」が備わっていることの根拠となる。つまり、プロトタイプの意味の「王者」(の多く)は、(他の選手等と比べて)「人気」があるという特徴を有すると考えられる。次に、(8)で「王者」と「高い収入」が関係している例を挙げる。

(8) 「もっとも有名なのは、球界の王者が大統領をも超えた、とファンに喝采された挿話だ。一九三〇年、ベーブ・ルースはヤンキースとの契約更改交渉で年俸八万ドルでサインした。」(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(NINJAL-LWP for BCCWJ))

(8) はメジャーリーガーの「ペーブ・ルース選手」を「球界の王者⁷⁾」と表現し、その年俵が当時の大統領をも超えたとされる例である。「王者」で表されている一野球選手が国の大統領の年俵を超すということは、「王者」が「高い収入」を得ることの根拠となる。

以上、(6)～(8)に基づき、「王者」という語のプロトタイプの意味が「他の(相当数の)選手等と戦い、勝ち上がって成る」「高い実力」「高い人気」「高い収入」という要素を含むことを示した。

4.3 「AはBの王者」の意味

4.3では、(2)～(4)の「AはBの王者」形式が、「王者」という語のプロトタイプの意味「他の(相当数の)選手等と戦い、勝ち上がって成る。高い実力・人気・収入(収益)を有する。」のどの要素を受け継いでいるかを検討し、そして、「AはBの王者」形式の意味を明らかにする。

まず、(2)では、備前刀について、「生産量、品質のいずれでも他の産地を圧倒し」とある。この「品質」は、モノに備わった性質であることから、人間における「実力」と同様だと考えられる。さらに「他の産地を圧倒し」という記述は他の同類の産地(の刀)と比較し、その中でも「品質」が抜きん出ていることを示している。つまり、(2)の「王者」はプロトタイプの意味の「他の(相当数の)選手等と戦い、勝ち上がって成る」という特徴を受け継ぎ、他の同類のものと比較し、抜きん出ていることを示していると考えられる。

(3)では、当時娯楽といえばテレビの他にもラジオ放送やスポーツ観戦等があったが、それらと比較して、人気が高いことを「テレビは娯楽の王者だった」と表現している。つまり、「王者」という語の「高い人気」というプロトタイプの意味を構成する要素の一つを受け継いでいる。

(4)では、公営ギャンブルは競馬や競輪等があるが、競艇が競馬等の同類のものと比較して、より「人気」があり、さらに「売上高」という観点が明記されてい

ることから「収益」が高いことを「競艇は公営ギャンブルの王者だった」と表現している。よって、プロトタイプの意味において、特に「高い人気」と「高い収入(収益)」という特徴を受け継いでいると考えられる⁸⁾。

以上をまとめると、「AはBの王者」形式は、＜他の(相当数の)選手等と戦い＞、＜勝ち上がって成る＞ことに相当する＜他と比較してまさっている＞ことを表し、さらに、＜高い実力・人気・収入(収益)を有する＞ことを表す形式であると考えられる⁹⁾。

5 「AはBのチャンピオン」の分析

5節では、「チャンピオン」という語について、4節で取り上げた「王者」と同様に、「王様」の類義語であり、「リンカーンは民主主義のチャンピオンだ」のように「AはBのチャンピオン」形式で使われることから、比較の対象として考察する。

5.1 「チャンピオン」の辞書の記述及びプロトタイプの意味とメタファーとして意味

5.1では、まず、「チャンピオン」について、上記の3種類の辞書の記述を見る。

『日本国語大辞典』(p. 1,435)

- ① スポーツなどの試合で優勝した人。選手権保持者。また、その道の第一人者。
- ② 戦士。闘士。

『大辞林』(p. 1,756)

- ① 選手権保持者。優勝者。
- ② ある方面の第一人者。代表者。
- ③ 擁護者

『大辞泉』(p. 2,339)

- ① スポーツなどの優勝者。選手権保持者。

② ある分野の第一人者。

「チャンピオン」という語について、3つの辞書に共通しているのは、「スポーツなどの優勝者」と「ある分野の第一人者」の二点である。なお、「ある分野の第一人者」という意味は、「スポーツなどの優勝者」という意味から、メタファーに基づき拡張したものだと考えられる。

(6)の「王者」を「チャンピオン」と言い換えても自然であるように(「村田諒太はミドル級の王者／チャンピオンだ」「広島(カープ)はセ・リーグの王者／チャンピオンだ」)、「王者」と「チャンピオン」は非常に近い意味であると考えられる。そのため、「チャンピオン」のプロトタイプの意味も「他の(相当数の)選手等と戦い、勝ち上がって成る。高い実力・人気・収入(収益)を有する。」に近いと想定される。なお、「チャンピオン」の辞書の記述に「スポーツなどの優勝者」とあることから、競争することが前提である「他の(相当数の)選手等と戦い」という性質は「王者」よりも顕著であると考えられる。また、「第一人者」と明記されていることから、「Bという分野における第一人者A」という意味を表す場合、「王者」よりも「チャンピオン」が使われる傾向にあると考えられる。以下の(9)～(11)は「第一人者」を表す「AはBのチャンピオン」形式である。

(9) リンカーンと分裂

私の名前は安倍(Abe)ですが、米国でときおりエイブと発音されます。しかし悪い気はしません——。安倍晋三首相が日米首脳会談後の会見で語っていた。貧しい家庭の生まれから大統領になったエイブラハム・リンカーンを連想させるからだ。2年前の米議会演説でも同じ話をしており、米民主主義をたたえる十八番なのだろう。今回違うのはトランプ大統領と並べたことだ。リンカーンが「民主主義のチャンピオン」を象徴し、公職経験のないトランプ氏が選ばれたのは、「民主主義のダイナミズム」を示

している。(『朝日新聞』(朝刊)2017年2月12日、聞蔵Ⅱビジュアル)

- (10) ビートルズには、真善美がそろっていた。ジョンが、世界の不正義に怒る〈真実〉のロックンローラー。ポールは人生の〈美しさ〉に身を捧げたラブソングのチャンピオン。そしてジョージの歌からは、〈善き人〉が浮かび上がる。(『週刊アエラ』2016年3月28日、聞蔵Ⅱビジュアル)
- (11) 白壁の蔵が並ぶ美観地区や大原美術館にも近い中心街に、コンクリート打ち放しの建物が立つ。もともとは、1960年に完成した倉敷市庁舎だった。
設計したのは、広島平和記念資料館や国立代々木競技場を手がけた、戦後建築のチャンピオン、丹下健三(1913～2005)。(『朝日新聞』(夕刊)2015年7月1日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(9)～(11)はそれぞれ、「リンカーンは民主主義のチャンピオンだ」「ポール(マッカートニー)はラブソングのチャンピオンだ」「丹下健三は戦後建築のチャンピオンだ」という形式であり、「AはBのチャンピオン」形式における、「Bという分野の第一人者A」をメタファーとして表現しているといえる。これらは「AはBの王者」形式に言い換えることは難しい。

(12)a.?? リンカーンは民主主義の王者だ。

b.?? ポールはラブソングの王者だ。

c.?? 丹下健三は戦後建築の王者だ。

(12)は非常に不自然である。つまり、「ある分野の第一人者」を表せることは「王者」にはない「チャンピオン」固有の意味である。

「ある分野の第一人者」以外の意味では、「テレビは娯楽の王者／チャンピオンだ」等のように多くの場合「王者」と「チャンピオン」は言い換えができるが、言い換えができない例も存在する。以下の(13)と(14)である。

(13) 遅刻のグランドチャンピオン

先日、あるところで高校の同級生に会ったんですが、(秋にあったクラス会でも顔は合わせてますが) 今日、さっき思い出したんですが、彼は遅刻が多くて、前期の遅刻チャンピオンで私は二位だったんですよ。後期には彼は改心して生活態度を改めて遅刻をしなくなったんですが、ほかの人が後期のチャンピオンになったんですが、私は後期も2位だったんですよ。年間を通してのグランドチャンピオンになったんです。

(<https://blogs.yahoo.co.jp/otatsugio/38556165.html>、最終閲覧日 2019 年 12 月 6 日)

(14) Q. あなたは何のチャンピオンですか？

A. 二度寝のチャンピオンです

(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13106219583?page=2、最終閲覧日 2019 年 12 月 16 日)

(13) は「彼は遅刻のチャンピオンだ」、(14) は「(私は) 二度寝のチャンピオンだ」という「A は B のチャンピオン」形式である。これは「王者」には言い換えができない。

(15)a. *彼は遅刻の王者だ。

b. *私は二度寝の王者だ。

(15) が非文となる要因は、「A は B のチャンピオン」形式における B の要素が好ましくない事柄を表しているからだと考える。

まず、「チャンピオン」のプロトタイプの意味は、おおよそ「スポーツ等の優勝者」という意味であるから、すでに見たように、「(スポーツの大会等において) 勝ち上がって成る」という特徴が、「王者」よりもより顕著に見られると考えられる。

(13) の「私は遅刻のチャンピオン (だった)」という例の場合、遅刻の回数を競う大会が行われたわけではないが、クラスの中で、半年あるいは一年という単

位で、各自の遅刻の回数が記録され、回数を集計して、「私が一位だった」ということである。つまり、「遅刻の回数が最多」であるということは、「スポーツの大会等での優勝者」と同様に、ある事柄について、あるプロセスを経た結果、他の同類の者にまさっていることがわかったということである。なお、あらためて確認すると、「あるプロセスを経る」とは、「チャンピオン」のプロトタイプの意味においては、「(スポーツの大会等において) 勝ち上がる」ことであり、「遅刻のチャンピオン」というメタファーに基づく意味においては、「(遅刻の回数を) 他の者と比較する」ということである。

以上のように、ここでのメタファーに基づく「チャンピオン」の意味は、「勝ち上がって成る」というプロトタイプの意味を受け継いでいると考えられる。以下の例も、好ましくない事柄を表す「A は B のチャンピオン」形式である。

(16) そういう陳情口利き政治のチャンピオンだったのが角栄で、角栄は毎日何十人もの陳情客から陳情を受け、それを一人当たりほんの数分で即決でさばいていく (その場で本人または秘書が役人に電話したりする) ことで有名でした。(立花隆『政治と情念』、p. 149、文春文庫)

(17)——知事時代は金権との戦いだったが

金権体質を批判して知事になった。それが国政では一転して現金が動く世界。金は必要、割り切らなければと受け取っていたけど、こんなことでいいのかという生理的な反発を感じた。

(中略)

——小沢一郎・元民主党代表との対比が目立つ構成です

政治改革法案を廃案にした勢力こそ、金権体質のチャンピオンで小沢さんのいた経世会。さがけをつくって党を出たが、数日後に小沢さんも飛び出すとはまったく思っていなかった。戦う相手だと思っていた小沢さんの新生党と組んだ細川護熙首相の内閣は矛盾の多い出発になっ

た。(『朝日新聞』(朝刊) 2011年4月17日、
聞蔵Ⅱビジュアル)

(16)は「(田中)角栄は陳情口利き政治のチャンピオンだった」、(17)は「経世会は金権体質のチャンピオンだった」という「AはBのチャンピオン」形式であり、Bが好ましくない事柄を表している。(16)の「陳情口利き政治」とは支持者等から依頼があるとすぐ「その場で本人または秘書が役人に電話し」解決し、恩を売って選挙での票を確保するという実態だが、本来政治は公平公正なものであるべきなので、「陳情口利き政治」は好ましくない。なお、この「陳情口利き政治のチャンピオン」という例においても、「チャンピオン」のプロトタイプの意味の「勝ち上がって成る」という特徴を受け継いでいると考えられる。つまり、「陳情口利き政治」という政治のやり方において、角栄と「他の政治家を比較する」と、角栄が他の政治家よりも際立ってこの政治のやり方をとっていることが明らかであることに基づき、「陳情口利き政治のチャンピオン」と表現しているわけである。

(17)の「金権体質」とは金銭の授受によって政治の舵取りが決まるという性質を表す語であり、明らかに好ましくないことである。この場合も、「チャンピオン」という語のプロトタイプの意味である「勝ち上がって成る」という特徴を受け継いでいると考えられる。金権体質という組織の性質について、「他の会派と比較」すると、経世会が他の会派よりも際立っていることが明らかであることに基づき、「金権体質のチャンピオン」と表しているわけである。

ここまで、「チャンピオン」のプロトタイプの意味について、「王者」と比較したうえで、「AはBのチャンピオン」形式について見てきた。結論として、「チャンピオン」という語のプロトタイプの意味は「他の(相当数の)選手等と戦い勝ち上がって成る。高い実力・人気・収入(収益)を有する。ある分野の第一人者」であり、「AはBのチャンピオン」はこの特徴を受け継ぎ、好ましくないことにも使えることを示した。

5.2 「AはBのチャンピオン」の意味

5.1を踏まえて、「AはBのチャンピオン」形式の特徴をまとめると、＜他の(相当数の)選手等と戦い＞＜勝ち上がって成る＞ことに相当する＜他と比較してまさっている＞ことを表し、＜高い実力・人気・収入(収益)を有する＞ことを示す形式であると考えられる。また、＜ある分野の第一人者＞を顕著に表し、さらに、好ましくない事柄についても表すことができる形式である¹⁰。

6 「王様」の再考

6節では、「王者／チャンピオン」のプロトタイプの意味及び「AはBの王者／チャンピオン」の考察を踏まえ、「王様」という語について再考する。

「王様」については、「王者／チャンピオン」にある「他の同類のものとの比較という過程」は認められず、生まれながら王になる血縁が重視されると考えられる。そのため、森(2010)のいうように「AはBの王様」形式には＜一位＞性が前提となっていると考えられる。また、＜一位＞性の他に、絶対的な地位や支配力・決定権、世襲制等の要素が「王様」のプロトタイプの意味に関わると考えられる。

以下で、まず、「王様／王者」が言い換え可能なものについて考察する。

(18) その味と大きさから「エビの王者」と呼ばれる高級食材イセエビ。(『朝日新聞』(朝刊) 2016年10月15日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(18)は「イセエビはエビの王者だ」という形式で、2節で「エビの王様、イセエビ」という例があるように、「王様／王者」の両方が使える。(18)のように「王者」を使った場合はその大きさや美味性について高い人気があることを表すと考えられる。そして、他の同類のエビと比較してイセエビが最も大きくおいしいという結論に至った過程が想定できる。「王様」を使った場

合、イセエビは生まれた時点でイセエビであり、イセエビとして生まれて甘エビになることはないわけで、他のエビとは生まれた時点で出荷時の大きさやおいしさが異なり抜きん出ている（＜一位＞性を有する）ことを表すと考えられる。どちらの語も使えるが意味は異なるということである。

次に、言い換えができない場合を考察する。(5a)で「? 備前刀は日本刀の王様だ」が言いにくいことを見たが、これは「他の産地を圧倒し」という記述があり、他の同類の産地と比較していることが明らかであるからである。

また、「王者」を用いた表現で、実際に他と比較して＜一位＞を獲得したことが明らかなものについても、「王様」に言い換えができない。以下の(19)(20)が他と競って＜一位＞を獲得したことが明白な「王者」の例で、(21)はその「王者」を「王様」に言い換えたものである。

(19)大航海時代、海の王者だったスペインは日本との交易、さらにはキリスト教の布教とをセットにして狙っていたようだ。(『週刊朝日』2013年3月22日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(20)JTBの台湾法人が初めて企画した県内だけのツアーだ。静岡空港から入り、富士宮、御殿場、修善寺などを回る4泊5日。静岡市清水区出身の漫画家さくらももこさんの代表作「ちびまる子ちゃん」のすべてがわかる展示館「ちびまる子ちゃんランド」(同区)への訪問や、B級ご当地グルメの王者「富士宮やきそば」、ウナギ、安倍川もち、お茶などのグルメ、砂金採り体験など盛りだくさんだ。(『朝日新聞』(朝刊)2015年2月25日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(21)a. *大航海時代、スペインは海の王様だった。
b. *「富士宮やきそば」はB級ご当地グルメの王様だ。

(19)は、スペインがポルトガル等の国と競い、海(海路での貿易等)の覇権を握っていたことを「海の

王者」と表現しているが、このような争いは史実にもあるためスペインが他国と争ったという過程は誰もが知りうる情報である。そのため、(21a)の「*大航海時代、スペインは海の王様だった」という表現は容認されない。

(20)は、実際に行われたB級ご当地グルメの大会で「富士宮やきそば」が優勝したことを表しているため、大会で他の候補と競ったことは明らかであり、(21b)のように「王様」を使って表現することはできない。

「チャンピオン」についても、「王者」同様に他と比較したことが明示されているものは「王様」に言い換えることができない。

(22)オーストラリアのコアラ基金(ききん)によると、だいたい1日(にち)に18時間(じかん)から22時間ぐらい、眠っているんだって。哺乳類(ほにゅうるい)だと、ナマケモノも、15時間から20時間ぐらい寝(ね)ているっていわれているわ。どちらも野生(やせい)の状態(じょうたい)では、もっと活動的(かつどうてき)だという報告(ほうこく)もあるけれど、動物園のなかでは、よく眠る動物のチャンピオン格(かく)といったところね。(『朝日新聞』(朝刊)2018年2月24日、聞蔵Ⅱビジュアル)

(23)*コアラはよく眠る動物の王様だ。

(22)では、コアラが動物の中で極めてたくさん眠ることを表している例である。(22)で、よく眠る動物として想起されやすい「ナマケモノ」との比較をしていることから、他の同類のものと比較するという過程を経ていることがわかる。そのため、(23)のように「王様」に言い換えることができないと考える。

なお、(22)は「チャンピオン格」という表現が使われているが、今回の議論に直接関わらないため、「チャンピオン」として扱った。「*王様格／*王者格」という表現は不自然なため、意味の違いを分析する上では有効な手がかりであるかもしれない。

7 「AはBの王様／王者／チャンピオン」と「AはBの代名詞」の比較

7節では、「AはBの王様／王者／チャンピオン」と「AはBの代名詞」を比較し、本研究の「王様／王者／チャンピオン」の意味記述の妥当性を確認する。

7.1 「王様」と「代名詞」の比較

7.1では、「王様」と「代名詞」を比較する。森(2010)では「シイタケはきのこの代名詞／？王様だ」という例と「マツタケはきのこの？代名詞／王様だ」という例に基づき、代表的であれば「代名詞」が使える、何らかの点で一位であれば「王様」が使えるとしている。初山 2020a, 2020b では、「AはBの代名詞」形式は、AがBの「代わりのことば」となることを意味するとした¹⁾。上記の例に当てはめて考察すると、シイタケは市場に出回る数も多く、「きのことといえばシイタケ」と考える人が想定できるため、シイタケをきのこの「代わりのことば」と捉える「代名詞」が使えることになる。一方、マツタケの場合は、高価であり収穫できる季節も限られるため、「きのことといえばマツタケ」と考える人が想定しにくいいため、「代名詞」は使えないわけである。

7.2 「王者」と「代名詞」の比較

7.2では、「王者」と「代名詞」を比較し、本研究の「王者」の意味記述の妥当性を確認する。「備前刀は日本刀の王者／代名詞だ」のように、「王者」の＜他と比較し優っている＞という特徴と＜高い人気を有する＞等の特徴が認められ、「代名詞」の「代わりのことば」となるという特徴も認められる場合、どちらの表現も使えると考えられる。どちらか一方の条件を満たしていない場合、片方の表現のみが有効である。すなわち、「神童はモーツァルトの代名詞／*王者だ」のように、「神童」が「モーツァルト」の「代わりの

ことば」となることを示す「代名詞」は自然な表現だが、「モーツァルト」において「神童」という特徴が＜他と比較し優っている＞＜高い実力・人気等を有する＞ということが想定できないため、「王者」は使えないということである。

また、「王者」の特徴は満たすが「代名詞」の特徴は満たさない表現についても、同様のことがいえる。「イセエビはエビの王者／??代名詞だ」という例では、「イセエビ」は＜数ある＞エビと＜比較＞し、その中で＜高い人気を有する＞ことを表す「王者」は自然な表現である。一方、エビの「代わりのことば」となるほど市場に出回り「エビといえば○○」と想起できるエビは「イセエビ」とは考えられないため、「代名詞」を使った表現は不自然だと考えられる。

7.3 「チャンピオン」と「代名詞」の比較

7.3では、「チャンピオン」と「代名詞」を比較し、本研究の「チャンピオン」の意味記述の妥当性を確認する。なお、「チャンピオン」の意味は「王者」の意味と類似しており、「代名詞」との比較についても、重なる部分が多い。

「神童はモーツァルトの*チャンピオン／代名詞だ」のように、「神童」が「モーツァルト」の「代わりのことば」となることを示す「代名詞」は自然な表現だが、「モーツァルト」において「神童」という特徴が＜他と比較し優っている＞＜高い実力・人気等を有する＞ということが想定できないため、「チャンピオン」は使えない。一方、「コアラはよく眠る動物のチャンピオン／??代名詞だ」という表現は、「チャンピオン」は自然だが、「代名詞」は不自然である。「チャンピオン」を使った場合は、6節で説明したように、「よく眠る動物」として想起されやすいナマケモノ等と＜比較し優っている＞ことを表す形式として妥当である。しかしながら、「コアラ」は、「よく眠る動物」の「代わりのことば」となるほど「よく眠る動物」の代表的な動物とはいえないため、「代名詞」は不自然であると考えられる。

8 まとめ

本研究では、「A は B の王様／王者／チャンピオン」形式について、その意味・用法を明らかにすることを目指した。また、「王様／王者／チャンピオン」と「代名詞」を比較し、本研究の「王様／王者／チャンピオン」の意味記述の妥当性を確認した。

3節では、先行研究で「A は B の王様」形式がどのように扱われているかを見た。4節では「王様」の類義語である「王者」について、辞書の記述を概観し、辞書の記述を踏まえ「王者」のプロトタイプの意味を明らかにした。そして、「A は B の王者」形式は、＜他の（相当数の）選手等と戦い＞、＜勝ち上がって成る＞ことに相当する＜他と比較しまさっている＞ことを表し、さらに、＜高い実力・人気・収入（収益）を有する＞ことを表す形式であることを示した。

5節では、「王様／王者」の類義語である「チャンピオン」について、辞書の記述を概観し、辞書の記述を踏まえ「チャンピオン」のプロトタイプの意味とプ

ロトタイプの意味から拡張したメタファーとして意味を明らかにした。そして、「A は B のチャンピオン」形式は、「A は B の王者」形式と同様に、＜他の（相当数の）選手等と戦い＞＜勝ち上がって成る＞ことに相当する＜他と比較しまさっている＞ことを表し、＜高い実力・人気・収入（収益）を有する＞ことを示す形式であることを示した。また、「王者」と異なり、＜ある分野の第一人者＞を顕著に表し、さらに、好ましくない事柄についても用いることができる形式であることを示した。

6節では、「王者／チャンピオン」の考察を踏まえ、「王様」という語について、その意味・用法を再考した。その結果、他と比較して＜一位＞を獲得したことが明らかなものについては、「A は B の王様」形式で表現できないことを示した。

7節では、「A は B の王様／王者／チャンピオン」と「A は B の代名詞」を比較し、本研究の「王様／王者／チャンピオン」に関する意味記述の妥当性を確認した。

参考文献

- 国広哲弥（1982）『意味論の方法』、大修館書店
 鈴木智美（1997）「多義語『ツク』（突・衝・撞・搗・吐）の意味分析」、『名古屋大学人文科学研究』第36号、pp. 165-191
 鷺見幸美（2019）「多義性と認知言語学」、辻幸夫（編）（主幹）『認知言語学大事典』、pp. 572-582、朝倉書店
 瀬戸賢一（2019）「カテゴリー化」、辻幸夫（編）（主幹）『認知言語学大事典』、pp. 270-280、朝倉書店
 初山泰斗（2020a）『「A は B の X」形式の意味・用法に関する研究』、東京外国語大学大学院総合国際学研究所博士前期課程国際日本専攻2019年度修士学位論文（未公開）
 初山泰斗（2020b）『「A は B の代名詞」形式に関する考察』、『日本認知言語学会第21回全国大会予稿集』、p. 89、日本認知言語学会
 森雄一（2003）「明示的提喻・換喻形式をめぐって」、山梨正明他（編）『認知言語学論考』No.2、pp. 1-24、ひつじ書房
 森雄一（2010）『「A は B の王様」形式について』、『成蹊國文』第四十三号、pp. 79-101、成蹊大学文学部
 森雄一（2013）「第4章 メトニミーとシネクドキー」、森雄一・高橋英光（編）『認知言語学 基礎から最前線へ』、pp. 79-101、くろしお出版

Lakoff, G. and M. Johnson (1980) *Metaphors We Live By*. The University of Chicago Press. (渡辺昇一他(訳)(1986)『レトリックと人生』、大修館書店)

辞典

松村明（監修）『大辞泉』（第二版）、小学館

松村明（編）『大辞林』（第四版）、三省堂

『日本国語大辞典』（第二版）、小学館 [ジャパンナレッジ Lib NK]

注

- 1 例文の下線は引用者が施したものである。また、本研究の考察対象である表現には実線「_____」を、また、何らかの点で考察に関係する箇所には波線「~~~~~」を記す。以下も同様である。
- 2 「あいつはチームの王様やから」という例に基づき、談話者の個人的な判断として当該人物と王様が結びつけられている例もあるとしている（p. 5）。
- 3 「姚黄」は中国原産のボタンの一種で、日本ではあまり知られていない。
- 4 「ルチンの王様（ダットンソバ）」についても、知名度は重視されていないと考えられる。
- 5 本研究では、容認度が低い例文には「？」を、容認度が極めて低い例文には「??」を文頭に付ける。また、非文のものには「*」を文頭に付ける。
- 6 「王者」という語の「王道をもって国を治める君主」という辞書記述は、「前方後円墳は、おそらく、地域政権の権能を体現した王者の尊厳と絶対性を象徴する、最高の墓制として築造された。前方後円墳がしだいに巨大化した背景には、利根川流域の地域政権から抜きん出た、蛇川流域の王者たちの覇権の拡大が当然考えられる。八幡山古墳以後、朝子塚古墳、別所茶臼山古墳と系譜的に大規模な前方後円墳を築造した蛇川流域の王者たちは、もはや蛇川流域の地域政権の領域をこえて、利根川水系の上位に君臨する巨大な権力を獲得していた。」（『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（NINJAL-LWP for BCCWJ））という例にあるように、歴史小説等で「その地方を統一する者」という用法で使われるもので、「王」に近い意味と考えられる。なお、現代の日本語ではこの用法は見られない。なお、『日本国語大辞典』の①には、「天皇」とあるが、現在、「天皇」に対して「王者」と呼ぶ、あるいは、「王者」という語を使うこともないと思われる。
- 7 この場合の「王者」はメタファーとしての表現である。
- 8 「王者」という語は、本来は戦争等に勝利しその一帯を支配する者を指す語であると考えられる。一方、現代では、「王者」という語がスポーツや、さらには戦いが直接想起しにくい「テレビは娯楽の王者だ」のような表現で用いられている。これは、戦争を起点領域、スポーツや商業を目標領域とした概念メタファー（Lakoff and Johnson 1980 等）に基づくものだと考えられ、今後さらに考察していきたい。
- 9 各形式の意味的特徴については、< >で括って示す。
- 10 査読者から、「『王』という漢字の表意性が『チャンピオン』にはないため、（「忘れ物のチャンピオン」等の）意味の漂白化が生じやすい」という趣旨のご指摘をいただいた。今後、「A は B の王様／王者／チャンピオン」形式と同様の面を有すると想定される「A は B のキング／クイーン／プリンスだ」等の外来語を含む形式の検討を通して、意味の漂白化の問題について考察していきたい。
- 11 詳しくは、初山（2020a: 第3章, 2020b）を参照のこと。